

感染症対策

ウイルス等の感染症が流行していても、**災害時には
危険な場所にいる人は避難することが原則**

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

知っておくべき 5 つのポイント

1 避難とは『難』を『避』けること
自宅で安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。

2 避難先は学校・集会所だけではありません
避難所が過密状態になることを防ぐため、安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。

3 マスク・消毒液・体温計が不足しています
避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ自分で持ってってください。
(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)

4 避難所、避難場所の変更・増設を確認
情報が変わる可能性があります。あらかじめ東秩父村ホームページ等で確認してください。

5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です
避難場所への経路など周囲の安全確認を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう

・避難所に入る前に

感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。
避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。

・手洗い、うがいをこまめに

食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いしましょう。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。

・咳エチケットの徹底

飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくてもマスクを着用しましょう。

・換気の実施

可能な限り、定期的に換気を行いましょう。
換気は季節を問わないので、防寒対策も必要です。

・「3密」(密閉・密集・密接)の回避

避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。背中合わせに座ったり、間仕切り(パーティション)を利用すると、飛沫感染の予防になります。
食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。

・日々の健康状態をチェック

定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

ハザードマップの見方

▼土砂災害警戒区域等について

- 埼玉県が調査したデータ(急傾斜地の崩壊・土石流・地すべり)を基に掲載しています。
- 現地調査等で把握したものです。地図に表示されていない箇所でも土砂災害は発生する可能性があります。

▼洪水浸水想定区域・想定水深について

- 入間川流域の洪水予報区間について、想定最大規模降雨(3日間総雨量/740mm)による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。
- 現時点の入間川流域の河道および洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨(3日間総雨量/740mm)に伴う洪水による状況を、シミュレーションして予測したものです。
- 上記のシミュレーションは、**支川の決壊によるはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫等を考慮していません**。そのため、洪水浸水想定区域に指定されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際的水深と異なる場合があります。
- 入間川流域のはん濫を想定した図であるため、隣接する他の河川のはん濫による影響が考えられる区域では、別途、当該河川の洪水浸水想定区域を参照する必要があります。

※埼玉県で調査したデータ(洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図)を基に掲載

◆ハザード情報の見方◆



※ハザードマップの着色や凡例は市町村によって異なる場合があります

水害 洪水浸水想定区域(浸水深)



土砂災害

土砂災害警戒区域
土砂災害による被害のおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域
建造物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危険が生じるおそれがある区域

ハザードマップポータルサイト [検索](#)



家屋倒壊 家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸浸食)

洪水時の河岸浸食により、木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域

水の流れが速いため、**木造家屋は倒壊するおそれがあります。**

地面が削られ家屋は**建物ごと崩落するおそれがあります。**

